人文地理学研究　XV　161～185　1991

カナダの地理学

村　山　祐　司

Ⅰ　はじめに
Ⅱ　カナダ地理学の歴史
Ⅲ　地理学科と地理学研究者
　Ⅲ－1　地理学科の特色
　Ⅲ－2　大学教官の学問的バックグラウンド
　Ⅲ－3　カナダ地理学会
Ⅳ　研究活動と専門領域
　Ⅳ－1　大学教官の専門領域
　Ⅳ－2　学術雑誌と研究論文
Ⅴ　大学における地理教育
　Ⅴ－1　社会科学のなかでの地理学の地位
　Ⅴ－2　地理学のカリキュラムートロント大学を例にー
Ⅵ　むすびにかえてーカナダ地理学の特色

Ⅰ　は　じ　め　に

カナダは，政治的にはイギリスの，そして経済的にはアメリカ合衆国の影響を強く受けてきた国である．1970年代に入り，イギリスでは地理学がますます発展し，1980年代にはその全盛期をむかえる一方[1]，合衆国では地理学専攻学生の減少や相次ぐ地理学科の廃止で，地理学の前途が危ぶまれている[2]．このような対照的傾向のなかにあって，カナダの地理学は，現在，どのような状況におかれているのであろうか．今後，これまで以上に重要な地位を占めるようになるのであろうか．それとも合衆国と同じ停滞の道をたどるのであろうか．

本報告は，日本ではあまり紹介されていないカナダの地理学の特色や動向について，学会・スタッフ・専門領域・学術雑誌・カリキュラム・大学院教育・就職などに焦点をあてながら考察するものである．大学関係の報告が中心であり，初等・中等・高等教育あるいは研究所や連邦・州政府における地理学の役割や活動についてはふれることができなかったことを最初にことわっておく．

Ⅱ　カナダ地理学の歴史

今世紀初期までは，地理学は中・高等の学校教育で教えられていただけであり，大学レベルでは講義題目に取り上げられてはいなかった．中・高等の学校教育においては，フランス語圏のケベック州ではフランスの制度が，英語圏諸州ではイギリスの制度が導入されていた．

大学における地理学の講義は，1910年，モントリオール大学のSchool of Higher Commercial Studies で Henry Laureys教授によって初めて行われたとされているが，独立した学科としては存在していなかった[3]．モントリオール大学での正式な地理学科の設立は，1947年まで待たなければならなかった．「地理学」という名称をもつカナダで最初の学科は，1922年にブリティッシュ・コロンビア大学で生まれた．しかし，この学科は地質学との合併学科（地質・地理学科）であり，1945年までは地理学の講義は自然地理学だけであった．しかも教鞭をとっていたのは地質学者であった．この

ように20世紀初頭の段階では，カナダの地理学は，モントリオール大学の地理学者とブリティッシュ・コロンビア大学の地質学者によって講義されていただけであった．

カナダにおいて，最初の単独で正式な地理学科Department of Geographyは，1936年にGriffith Taylorによりトロント大学に設立された．彼は，合衆国のシカゴ大学やオーストラリアのシドニー大学で教鞭をとったことのある著名な地理学者であった．地理学科の設立後，1940年には地理学専攻者のためのコースHonours Courseがスタートし，同時に大学院学生の募集も始まった．当時，地理学専攻の卒業生は，主に教員として就職していった[4]．1944年に，最初のPh. Dの学位が，Taylor教授の指導の下，中国人の学生に与えられた．トロント大学地理学科の設立から2年後の1938年には，オンタリオ州ロンドンにあるウェスタン・オンタリオ大学の地質学科で，合衆国から招聘されたE. G. Plevaにより地理学の講義が始まった（1949年に地理学科として独立）．1942年には，オンタリオ州ハミルトンのマックマスター大学で地理学科が新設され，トロント大学に次ぐ2番目の地理学科をもつ大学となった．

第2次世界大戦中，地理学（地政学）は防衛・戦略上重要な役割を担い，その重要性・必要性を国民に認識させた[5]．地理学専攻学生の多くが軍や政府に雇用され，また大学の地理学研究室には多大な研究費や調査費が提供された．「カナダでは戦争が地理学を作った」といわれるが，それはこのことをさす[6]．

これを契機に，戦後になると，多くの大学で地理学科が短期間に次々に設立されていった．1945年に，イギリスで教育を受けたG. H. T. Kimble[7]によりマギル大学（モントリオール）で地理学科が誕生した．1947年にはモントリオール大学で地理学研究所が，そして同年ラバル大学で地理学科が開設された．1949年になると，ウェスタン・オンタリオ大学では従来の地質学科から独立し，地理学科は単独学科に昇格した．1947－49年の時期には，トロント大学の地理学科は，1,000人の登録学生を有するほど人気があった．それに相応して地理学教官の数も増え，学科の規模も大きくなっていった[8]．この時期に，トロント大学の伝統となっている野外実習がD. F. Putnamの指導の下に取り入れられ，多くの地域調査報告を生み出す下地が作られた．

1950年には，8大学が正式な地理学科を有していた．大学院修士課程は6大学に，そして博士課程は3大学に設置されていた．さらに1950年から70年にかけて地理学科の設立が相次ぎ，カナダの主要大学のほとんどで地理学科が存在するまでになった．こうして地理学の研究体制が急速に充実し，カナダ地理学の土台作りはこの早い時期に完了した．しかし，1970年以後のカナダでは，トロントのライアソン・ポリテクニカル研究所（学部学生を受け入れており，大学の機能を果たす）において，1974年に地理学科が開設されただけである．

Ⅲ　地理学科と地理学研究者

Ⅲ－1　地理学科の特色

カナダには，現在，地理学科を有する大学が30ある．そのうち25の大学が修士課程のプログラムを，

そして20の大学が博士課程のプログラムをもつ[9]（第１表）．ウィンザーからケベックに至るカナダ・メガロポリス地帯に19の大学が集中する．大西洋沿岸諸州（ニュー・ブランズウィック州，プリンス・エドワード・アイランド州，ノバ・スコシア州，ニューファンドランド州）では，地理学の博士課程をもつ大学は存在しない．わずかに修士課程をもつニューファンドランド・メモリアル大学がセント・ジョンズにあるだけである．フランス語圏のケベック州には６大学が存在し，フランス語による教育が行われている大学は３大学（ラバル大学，モントリオール大学，シェブロック大学）である．

第１表　地理学科のあるカナダの大学[1]

大学名[2]	地理学科設立年	大学院		教官数[3]	学生登録人数		
		修士	博士		学部	修士	博士
アルバータ大学	1957	○	○	24	62	28	18
ブランドン大学	1962			8	30	−	−
ブリティッシュ・コロンビア大学	1922	○	○	25	174	25	20
ブロック大学	1964			9	100	−	−
カルガリー大学	1961	○	○	16	153	25	6
カールトン大学	1949	○	○	23	199	13	3
コンコルディア大学	1959			9	240	−	−
ゲルフ大学	1966	○	○	17	130	16	−
ラバル大学	1948	○	○	26	189	54	55
マニトバ大学	1951	○	○	17	150	13	10
マギル大学	1945	○	○	15	113	21	15
マックマスター大学	1942	○	○	18	225	17	11
ニューファンドランド・メモリアル大学	1960	○		22	260	5	−
モントリオール大学	1947	○	○	15	176	38	10
オタワ大学	1951	○	○	18	163	11	12
クウィーンズ大学	1960	○	○	20	268	29	17
リジャイナ大学	1966	○	○	8	75	14	1
ライアソン・ポリテクニカル研究所	1974			13	190	−	−
サスカチュワン大学	1960	○	○	15	90	17	6
シェブロック大学	1963	○		17	151	13	−
サイモン・フレーザ大学	1965	○	○	21	247	20	14
トロント大学	1935	○	○	38	356	65	26
トレント大学	1968	○		11	190	5	−
ビクトリア大学	1949	○	○	13	160	28	9
ウォータルー大学	1962	○	○	29	125	8	9
ウェスタン・オンタリオ大学	1938	○	○	20	160	17	15
ウィルフリッド・ロウリエ大学	1960	○		15	295	28	−
ウィンザー大学	1965	○		15	170	7	−
ウィニペグ大学	1964			15	222	−	−
ヨーク大学	1962	○	○	32	603	19	12

資料：AAG（1989）：Guide to Departments of Geography in the United States and Canada, 1989－1990.
CAG（1989）：Canadian Association of Geographers Directory, 1989, 237p.

注１）数字はすべて1988年６月～1989年５月におけるものである．
２）この表にはCanadian Association of Geographers Directory掲載の43大学のうちの30大学のみ表示してある．残りの13大学は学科自体をもたなかったり，学科の規模がきわめて小規模なものである．
３）講師以上の専任教官数を示してある（名誉教授等は含まない）．

地理学教官の人数は，トロント大学が最大で，1989－90年度で教授14名，準教授21名，助教授３名を擁する．ついで，ヨーク大学（32名），ウォータルー大学（29名），ブリティッシュ・コロンビア大学（25名）の順にスタッフ数が多い．次に学生登録人数をみると，学部レベルでは，ヨーク大学（603人），トロント大学（356人），修士レベルでは，トロント大学（65人），ラバル大学（54人），そして博士レベルでは，ラバル大学（55人），トロント大学（26人）が上位を占める．学部学生が多い大学で必ずしも大学院学生の人数が多いとは限らず，学部教育に重きをおく大学があれば，大学院教育に比重がある大学，両方に力をいれる大学ありとさまざまである．

合衆国とカナダの地理学科の規模を比べてみよう．合衆国には，地理学科をもつ大学が210校，そのうち修士課程をもつ大学が138校，博士課程をもつ大学が51校存在する[10]．カナダの人口規模が合衆国の10分の１であることを考えると，合衆国と比べてカナダは人口のわりに地理学科の数が多いことがわかるであろう．特にカナダにおける博士課程プログラムの充実は目をみはるものがある．合衆国で博士課程をもつ大学の数は，カナダの2.6倍にすぎない．１地理学科当たりのスタッフ数や学生数に関してもカナダのほうが規模が大きい[11]．Wheelerの集計したデータ（博士課程プログラムをもつ合衆国47大学，カナダ18大学を調査）によれば，カナダの大学では１地理学科当たりの教官数は19.1人に達するのに対し，合衆国ではわずか12.7人にすぎない[12]．

Ⅲ－２　大学教官の学問的バックグラウンド

カナダの大学の地理学教官は，ほとんどが博士の学位（Ph.D）の称号をもつ．各地理学科における教官の学位取得大学はさまざまで，特定の大学への片寄りはみられない．学位取得大学の研究室にそのまま残り，教官となり教鞭をとるといった例はそれほど多くない．設立が古く規模の大きいトロント大学，ウェスタン・オンタリオ大学，マックマスター大学，ブリティッシュ・コロンビア大学を例にとると，現在の所属大学と学位取得大学が同じである教官は，それぞれ７人，３人，２人，６人にすぎない．スタッフの多くは他の大学で学位を取得している．教官の大学間移動も若い世代を中心に活発である．地理学専攻学生についても同様なことがいえ，同じ大学で，学部から修士課程を経て博士課程へと進む学生はそれほど多くない．自分にとって最良の研究条件を獲得できる大学への転学は決してめずらしくはない．カナダには，学問的スクール（学派）はあっても，いわゆる学閥や同窓会的意識はきわめて弱い．

カナダの大学教官の学位取得国をみてみよう（第２表）．調査対象504名のうち，カナダの大学で学位を取得した教官が213名と42.3％を占める．ついで合衆国143名（28.4％），イギリス98名（19.4％）と続く．半分以上の教官が，学位をカナダ以外の国で取得している．フランスで学位を取得した教官は21名いるが，ほとんどがケベック州の大学で教鞭をとっている．オーストラリアとニュージーランドで学位を取得した教官が，それぞれ７名，３名存在するのは注目に値する．これら両国は英連邦に所属し，古くからカナダと学術的交流が深い国である．サバティカル時に，カナダの学者がオーストラリアやニュージーランドを訪問したり，あるいは逆に両国からカナダへ研修にくるといった例は多い．カナダの大学には，両国からの大学院留学生も多い．

第2表　カナダの大学における地理学教官の博士号取得国

単位：人

	カナダ	アメリカ合衆国	イギリス	フランス	オーストラリア	ドイツ	ニュージーランド	その他の国	合　計
1969年以前に取得	35	58	50	8	4	3	2	11	171
1970年以後に取得	178	85	48	13	3	1	1	4	333
合　計	213	143	98	21	7	4	3	15	504[1)]

資料：AAG（1989）：Guide to Departments of Geography in the United States and Canada, 1989－1990.

注1）リジャイナ大学の教官8名については博士号取得年が不明なので除外．また取得年月や取得国が不明な32名もこの表には含まれていない．

教授級の大学教官と準教授・助教授級の若い世代の教官との間には，博士号取得国に関して大きな差異が認められる．カナダの大学で学位を取得している教官のうち，1969年以前に取得した教官は35名にすぎないのに，70年以後に取得した教官は178名にものぼり，69年以前に取得した人数の5.19倍に達している．合衆国での取得では，この比率は1.47倍，そしてイギリスでの取得では0.96倍にすぎない．近年，いかに多くの教官が外国ではなくてカナダ国内で博士号を得ているかがわかる．70年以降のカナダにおけるこの急増は，50年代以降多くの大学で博士課程が開設されたことに対応する．これらの大学の博士課程の講座は70年代に入って充実し，各大学は質の高い博士号取得者を多数送り出すことに成功したのである．1980年以降に博士号を取得した教官についてみると，カナダの大学での取得割合はさらに高まっている[13)]．カナダの大学で博士課程の教育が近年非常に充実するようになったあらわれであろう．

なお，新しい大学では，カナダ国内で学位を取得した教官の割合が高く，また年齢層も低い．ちなみに，1968年に設立されたトレント大学では，11名の専任教官のうち，70年以前に学位を取得した教官は2名にすぎず，残りの9名は70年以降に学位を取得した若い教官である．また外国で学位を取得した教官は3名だけで，8名はカナダ国内で学位を得ている．カナダで一番新しく設立されたライアソン・ポリテクニカル研究所の地理学科では，13名の学位をもつ教官全員が，70年以降に，しかもカナダ国内の大学で学位を取得している．

国境を接するという地理的特殊性や高度な学問レベルを有した大学が多いこともあり，70年以降も，カナダの大学に所属する地理学教官のうち合衆国内で85人が学位を得ている．それと比べて地理学教官の供給国としてのイギリスの落ち込みは著しい．イギリスの大学は，1950－60年代においては，自然地理学者の養成で重要な役割を演じ，人文地理学者を含めカナダへ多くの地理学者を送りだしたが，60年代に入ると，徐々にそのシェアを合衆国の大学に奪われはじめ，さらに70年代以降は，カナダの大学の台頭により，さらに影がうすくなってしまった．

第3表は，カナダの大学に在籍する地理学教官の博士号取得大学を国別に整理したものである．カナダにおいては，トロント大学が最高位にランクされ，40人がこの大学で博士号を取得している．40人のうち34人は，1970年以後に博士号を得た若い世代の教官である．ついで33人のマギル大学が続く

が，このうち13人は，1969年以前に博士号を得た高年齢の教官である．したがって，1969年以前においては，トロント大学と比べてマギル大学のほうがより多くの大学教官を輩出していたといえる．3番目のマックマスター大学に関しては，69年以前の博士号授与者は2人にすぎない．4番目のウェスタン・オンタリオ大学まで加えて，カナダ国内で学位を取得した全地理学教官の57.7%をこれら4大学が占める．これらの大学はビッグ4とよばれ，いずれも1950年以前に地理学科が設立された伝統のある大学である．なお，ケベック州のフランス語圏の大学では，ラバル大学出身の教官が多い．

第3表　カナダの大学に在職する地理学教官の博士号取得大学

（単位：人）

カナダ		アメリカ合衆国		イギリス	
トロント大学	40	シカゴ大学	13	ロンドン大学	26
マギル大学	33	ウィスコンシン大学	12	エジンバラ大学	10
マックマスター大学	28	ワシントン大学	11	ブリストル大学	7
ウェスタン・オンタリオ大学	22	クラーク大学	11	ケンブリッジ大学	7
ブリティッシュ・コロンビア大学	16	コロラド大学	7	リバプール大学	5
ウォータルー大学	14	ミネソタ大学	7		
アルバータ大学	14	ミシガン州立大学	7		
ラバル大学	12	アイオア大学	6		
オタワ大学	6	カリフォルニア大学（バークレー）	6		
モントリオール大学	5	カリフォルニア大学（ロサンゼルス）	5		
		ペンシルバニア州立大学	5		
		オハイオ州立大学	5		

資料：AAG（1989）：Guide to Departments of Geography in the United States and Canada, 1989－1990.
注：5人以上の地理学教官を有する大学のみを表示．

アメリカ合衆国における博士号取得大学に関しては，シカゴ大学出身者が13人と最も多い．しかしそのうち8人は1969年以前に博士号を取得した教官であり，70年以降はカナダ人地理学者の供給大学としてのシカゴ大学の地位は弱まっている．トロント大学にはシカゴ大学出身者が5人在籍し，そのうち4人は教授で，いずれも69年以前に博士号を取得している．1970年代のトロント大学地理学科をリードし，現在でも活躍を続けているこれら4教授（Bourne, Burton, Simmons, Whitney）は，カナダ地理学界の発展に多大な貢献をなしてきた．なお，1970年以降の博士号取得教官に限定すると，クラーク大学が8人で第1位となり，シカゴ大学の5人を抜く．

イギリスに関しては，ロンドン大学が26人と圧倒的多数を占めるが，1970年以降の取得者はそのうちの10人にすぎない．カナダの地理学界がまだ発展途上の段階にある時期には，ロンドン大学出身者はカナダ地理学の形成に大きな影響を与えたが，その役割も70年代以降は小さくなった．これに対してエジンバラ大学とブリストル大学は，70年以降の取得教官がそれぞれ7人と6人へと増加し，69年以前と比べてその比重を増してきている．なお，この表には掲載されていないが，フランスについては，ストラスブルグ大学出身者が4人と最も多く，ケベック州の大学に人材を供給してきた．

Ⅲ－3　カナダ地理学会

カナダの地理学研究者のための全国的組織であるカナダ地理学会Canadian Association of Geographersは，1951年に50人の地理学者が集い設立された．初代会長はトロント大学のD. F. Putnamであった[14]．同時に学会誌The Canadian Geographerが発刊された．17号を数えた時点で年4回発行に増やされ，1991年現在35巻を数える．1964年からは，毎年，学会員名簿と前年の会員執筆論文名を掲載するDirectory（News Letterとよばれた時期もある）が発行されるようになった．さらに1983年には応用地理的色彩の強いThe Operational Geographerが発刊され，現在に至っている．この雑誌はAAGにおけるThe Professional Geographerの役割に類似している．現在では年4回発行されている．

毎年，カナダ地理学会は全国レベルの学術大会を開くが，最近は比較的新しく地理学科が設立された小さな大学で開催される傾向にある．これは，主要大学ではすでに早い時期に何回も大会が開催されており，なるべく重複しないように異なる大学で大会を開きたいという学会の方針に基づく．毎回200～300名の会員が参加し，多様な研究発表が行われるが，大会の前後に行われる巡検（フィールド・トリップ）も研究活動として重要な役割を演じている．会員数は，1988年時で1,414名であるが（第4表），そのうちオンタリオ州居住者が722名と全会員の半数強を占める．外国人会員は全体の8.8％の124名である．そのうちアメリカ人は90名である．会員の職業構成をみると（第5表），大学教官が503名と約3分の1を占め，学生403名がこれに続く．

学会員の専門分野をみてみよう[15]．1985年時の調査であるが，1,300名（1985年当時）の会員の

第4表　カナダ地理学会の地域別会員数

	会員数	全会員数に対する割合（%）
オンタリオ州	722	51.06
ケベック州	147	10.40
ブリティッシュ・コロンビア州	144	10.18
アルバータ州	105	7.43
アメリカ合衆国	90	6.36
マニトバ州	51	3.61
サスカチュワン州	49	3.40
ニューファンドランド州	29	2.05
ノバ・スコシア州	26	1.84
ニュー・ブロンズウィック州	12	0.85
イギリス	11	0.77
ヨーロッパ	8	0.57
オーストラリア	5	0.35
アジア	5	0.35
ノースウエスト準州	4	0.28
南アメリカ	3	0.21
アフリカ	2	0.14
ユーコン準州	1	0.07
合　計	1,414	100%

資料：CAG(1988)：Canadian Association of Geographers Directory, 1988, 237p.

第5表　カナダ地理学会会員の職業分類

職業分類	総計	男子	全体に対する割合（%）
大学教員	503	(451)	34.1
カレッジ教員	24	(13)	1.6
小等・中等学校教員	30	(22)	2.0
連邦政府職員	83	(57)	5.6
州政府職員	59	(35)	4.0
市・地域レベル職員	27	(17)	1.8
ビジネス・産業従事者	110	(71)	7.5
学生	403	(238)	27.4
退職者	50	(44)	3.4
その他	184	(129)	12.5
合　計	1473	(1077)	100%

資料：MacKenzie, S. (1989)：The status of women in Canadian Geography, *The Operational Geographer*, 7－3, p.7.

うち，自然地理学333名，人文地理学732名で，残りは両分野にまたがるか，あるいは専門分野が不明の会員である．専門分野をさらに細分化してみると，多い順に，都市地理学（234名），経済地理学（172名），歴史地理学（161名），資源地理学（131名），地形学（129名），環境計画学（116名），地域計画学（114名），文化地理学（108名），土地利用学（93名）となっている．したがって，人文地理学では，都市・経済に関する研究が，そして自然地理学では資源・地形に関する研究が活発であるといえよう．

Ⅳ　研究活動と専門領域

Ⅳ－1　大学教官の専門領域

第6表は，地理学専門領域を33に分類し，アメリカ合衆国・カナダの大学における教官配置状況を示したものである．

アメリカ合衆国の大学の場合，講座が最も多く開かれているのは地図学（カルトグラフィー）で，少なくとも1人以上の教官を配置している大学は141校に達する．調査の対象となった大学は210校であるから，67％の大学は地図学の教官を擁していることになる．ついで，都市地理学（138学科），自然地理学（複合領域）（130学科），文化地理学（123学科）の順である．

カナダに限ると，最も多いのは，都市地理学（25学科）であり，ついで地形学，地理情報システム論（ともに24学科）そして気候・気象学（22学科）と続く．

カナダと合衆国を比較してみると，上位のレベルではそれほど大きな違いは認められないが，カナダにおける地理情報システムGISの卓越は目につく．実に8割の大学で，1人以上のスタッフを確保している．もともと合衆国で発展した分野であったが，現在ではカナダの大学の方がGISの機材や人材の導入に積極的である．カナダは，国土が広く未開発な地域を多くかかえているため，実用的にみても，地理情報システムの活躍する場は広い．

1学科当たりの地理学教官数に関して，割合が高い専門分野は，歴史地理学，観光地理学，農村地理学，社会地理学，地形学，土壌地理学などである．これらの専門領域の充実は，人口密度の低さ，移民の多さ，広大な農村地域，未開発な地下資源，自然破壊といったカナダ特有の地理的特性に起因したものであろう．

一方，合衆国と比べて配属の割合が低い専門領域は，政治地理学，地域開発論，地理教育[16]，災害地理学，その他の応用地理学などの分野である．

33の専門領域を，人文地理学，自然地理学，応用地理学に3分類してみると，合衆国と比べてカナダでは，人文地理学と自然地理学のスタッフ数が多く，応用地理学のスタッフ数が少ないといえる．

33の専門領域を統合して，1学科当たりの専門領域数を算出してみると，合衆国は10.5領域，カナダは15.5領域となる．カナダの大学の方が，1学科当たりでみて，より多くの専門分野を保有しており，多様性に富んでいることがわかる．これは前述した1学科当たりの教官数（合衆国：12.7人，カナダ：19.1人）とほぼ同等の割合であることから，両国ともバランスよく各専門領域の教官を配置しているともいえよう．したがって専門領域数の両国の差異は，地理学科の規模（教官数）の差によるものと考えられる．

第6表　北米の地理学科における専門領域

	専門領域	人文地理学														自然地理学								応用地理学										その他	合計
		地理思想	都市地理	交通地理	社会地理	農村地理	観光地理	地域開発論	人口地理	政治地理	立地論	歴史地理	経済地理	文化地理	農業地理	自然地理（複合領域）	水資源	土壌地理	海洋学	地形学	環境科学	気候・気象学	植生地理	その他の応用地理	リモートセンシング	計量地理	計画学	医学地理	災害地理	地理情報システム	地理教育	土地利用・保全	地図学	その他の地理学	
アメリカ合衆国	学科数[1]	28	138	41	20	43	30	33	83	60	66	42	20	110	123	26	130	63	40	7	79	84	102	47	57	62	64	115	20	29	113	49	109	141	30	2,197
	合計	886（40.3%）														552（25.1%）								759（34.5%）										30（0.0%）	
	割合（1学科当り）[2]	0.31	0.66	0.20	0.20	0.14	0.16	0.44	0.29	0.31	0.20	0.30	0.52	0.59	0.12	0.62	0.30	0.19	0.03	0.38	0.40	0.49	0.22	0.27	0.30	0.30	0.55	0.10	0.14	0.54	0.23	0.52	0.67	0.14	10.5
カナダ	学科数	5	25	13	15	15	17	13	16	9	13	20	21	20	10	21	15	14	1	24	15	22	13	4	16	16	18	6	4	24	0	18	21	8	464
	合計	212（45.7%）														125（26.9%）								127（27.4%）										8（0.0%）	
	割合（1学科当り）	0.17	0.83	0.43	0.50	0.50	0.57	0.43	0.53	0.30	0.43	0.67	0.70	0.67	0.33	0.70	0.50	0.47	0.03	0.80	0.50	0.73	0.43	0.13	0.53	0.53	0.60	0.20	0.13	0.80	0	0.60	0.70	0.27	15.5

資料：AAG（1989）：Guide to Departments of Geography in the United States and Canada, 1989－1990.

注1）上記の資料に掲載されている大学において各専門領域の教官が存在しいる地理学科の数.
　2）学科数を上記の資料に掲載されている大学で除した値（アメリカ合衆国の場合は210校，カナダの場合は30校）.

カナダにおける地理学科の専門領域に関する教官配置を主要大学別にみてみよう（第7表）．最も多くの専門領域を有するのはカルガリー大学である．応用地理学の3分野（地理教育，災害地理学，医学地理学）を除くすべての分野を担当できる教官を揃えている．1989年度のカルガリー大学の専任教官は16人であるから，2つあるいは3つの専門分野をこなす教官がバランスよく配置されているということであろう．第2位にランクされるのはトロント大学（28領域）である[17]．ついでオタワ大学（27領域），ウェスタン・オンタリオ大学，ヨーク大学（ともに24領域）と続く．一般に，教官数の多い規模の大きい大学では，専門領域の数も多いという傾向が認められる．

しかしながら，ブリティッシュ・コロンビア大学やラバル大学やサイモン・フレーザ大学などは，比較的多数の大学教官を有するにもかかわらず，カバーする専門領域は少ない．これらの大学はある特定の領域に力をいれ，特色を出している．ブリティッシュ・コロンビア大学の場合は，自然地理学，なかでも地形学と気候学のスタッフが多い．ラバル大学も自然地理学，特に地形学が充実し，5名の地形学の教官を配置している．サイモン・フレーザ大学では，人文地理学が充実しており，なかでも経済地理学の分野では6名の教官が配属されている．自然地理学のスタッフは，全教官21名中5名にすぎない．

このように，バランスよくさまざまの専門分野の教官を配置し，総合性を高めている大学もあれば，特定の専門分野に特化し，その分野において高度な専門教育を行うよう配慮した大学もある．

Ⅳ－2　学術雑誌と研究論文

カナダでは各種の地理学関係の学術雑誌が発行されているが，最も代表的で権威のある雑誌はThe Canadian Geographer(年4回, 1951年創刊)である．その他，定期刊行物としては，The Operational Geographer(年4回, 1983年創刊)，The Ontario Geography(年3回, 1967年創刊), The Albertan Geographer(年1回, 1964年創刊)，Western Geographical Series（年1回, 1970年創刊), Cahiers de Geographie de Quebec（年3回，1956年創刊)，Geographie Physique et Quaternaire（年3回, 1937年創刊．ただし1976年まではRevue de Geographie de Montrealと呼称)などがある．最後の2雑誌は，それぞれケベック州のラバル大学とモントリオール大学に事務局があり，ほとんどの論文はフランス語で書かれている．これらの他に，地理学研究者が多く投稿している雑誌にCanadian Journal of Regional Science（年3回，1978年創刊）がある．

一方，不定期の地理学雑誌は，第8表のように各大学地理学科からさまざまな形で出されている．

以上のように，多くの地理学雑誌がカナダで発行されているが，これらの研究雑誌にはどのような特色があるだろうか．第9表は，The Canadian Geographer誌の掲載論文を6つの専門分野に分けて，その論文本数を1970年から84年まで年代順に示したものである[18]．自然地理学の論文は，ほとんどが地形学か気候学の分野に限られ，植生地理学や水文学の論文は少ない．自然地理学の論文の60％は，1970－76年の間に出されたものであり，自然地理学の論文数は減少傾向が認められる．これは，自然地理学者が，The Canadian Geographer誌以外の純粋な自然地理学雑誌に投稿するようになったことにもよると思われるが，何よりも，多くの自然地理学者が人間活動がもたらす環境の変

第7表　博士課程をもつ地理学科の専門領域

	人文地理学															自然地理学								応用地理学									その他	
	農業地理	文化地理	経済地理	歴史地理	立地論	政治地理	人口地理	地域開発論	観光地理	農村地理	社会地理	交通地理	都市地理	地理思想	植生地理	気候・気象学	環境科学	地形学	海洋学	土壌地理	水資源	自然地理（複合）	地図学	土地利用・保全	地理教育	地理情報システム	災害地理	医学地理	計画学	計量地理	リモートセンシング	その他の応用地理	その他の地理学	合計
アルバータ大学			○	○	○		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○		○	○		○	○	○			22
ブリティッシュ・コロンビア大学		○	○	○									○			○	○	○				○				○								9
カルガリー大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○	○	○	○	○	30
カールトン大学		○	○	○		○				○	○					○	○			○				○		○		○			○		○	14
ゲルフ大学	○	○		○	○				○	○	○				○			○				○	○	○				○	○					14
ラバル大学		○		○									○		○	○		○					○			○								8
マニトバ大学	○	○	○	○			○	○	○			○	○			○		○					○	○		○	○							15
マギル大学		○	○	○				○	○		○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○		○			○	○	○			20
マックマスター大学	○	○			○		○	○			○	○	○		○	○		○		○		○				○		○	○	○				17
モントリオール大学			○		○	○	○			○	○	○	○		○	○		○		○		○	○			○		○		○	○		○	19
オタワ大学	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○			○	○	○	○	○	27
クウィーンズ大学		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○		○		○		○	○	○		○		○	○	○	○			23
リジャイナ大学	○		○					○	○									○			○			○		○			○					9
サスカチュワン大学			○		○		○	○					○		○	○		○				○	○						○					11
サイモン・フレーザ大学		○	○								○											○				○			○					6
トロント大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○		○	○	○			28
ビクトリア大学									○				○									○		○		○					○		○	7
ウォータルー大学			○	○			○		○	○		○	○			○	○	○		○	○	○	○	○		○					○			17
ウェスタン・オンタリオ大学	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○		○	○	○	○	○		○			○	○	○			24
ヨーク大学		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○		○			○	○		○		24

資料：AAG（1989）：Guide to Departments of Geography in the United States and Canada, 1989－1990.

注　：○印は該当する専門領域の教官が在職することを示す.

第8表　カナダの主要大学の地理学科における不定期刊行雑誌

大学名	雑誌名	創刊年
アルバータ大学	Studies in Geography	1971
	Monograph	1974
	Occasional Paper	1970
カールトン大学	Laboratory Technique Reports	1972
ゲルフ大学	Occasional Papers	1967
	Geomorphology Series	1969
	Rural Geography Series	1975
マギル大学	Climatological Bulletin	1967
	Climatological Research Series	1966
	Publications in Tropical Geography	1964
マックマスター大学	Discussion Papers	1974
マニトバ大学	Manitoba Geographical Studies	1973
モントリオール大学	Note et Documents	1977
ニューファンドランド・メモリアル大学	Research Notes	1976
オタワ大学	Occasional Paper	1971
	Research Notes	1972
ラバル大学	Notes et Documents de Recherche	1974
	Travaux	1970
	Publications	1966
リジャイナ大学	Regina Geographical Studies	1977
サイモン・フレーザ大学	Discussion Papers	1978
トロント大学	Discussion Paper Series	1969
	Research Publication	1968
トレント大学	Occasional Papers	1972
ビクトリア大学	Occasional Paper in Geography	?
ウォータルー大学	Department of Geography Publication Series	1971
	Occasional Papers	1971
ウェスタン・オンタリオ大学	Geographical Papers	1964
ウィルフリッド・ロウリエ大学	Bibliography and Review of Geography	1974
	Department Discussion Papers, Occasional Papers and Monographs, Special Publication	1978
ヨーク大学	Discussion Paper	1972
	Geographical Monographs	1973

化や資源の開発が与える自然へのインパクトなど，自然と人間の関わりに目を向けるようになったからだと指摘されている．都市地理学は，カナダでは非常に研究が活発な分野であり，特に1977年頃から論文数が急増している．なかでも都市システム研究(都市内システムと都市群システムの両方とも)が盛んである．カナダの都市地理学者による都市システムの概念や研究方法の提示および実証研究の蓄積は，他国におけるこの種の研究に大きな影響を与えてきた．

第9表　The Canadian Geographer 誌にみられるカナダに関する研究論文の分類（1970－84年）

年	地理学方法論	自然地理学	都市地理学	歴史地理学	地図学	計量地理学
1970	7	8	3	1	0	6
1971	3	6	4	3	0	5
1972	3	7	1	2	0	5
1973	5	5	3	2	1	9
1974	4	4	5	2	2	7
1975	1	6	1	3	0	6
1976	2	6	4	2	1	5
1977	5	2	6	2	0	3
1978	2	1	9	2	1	6
1979	3	5	6	2	0	9
1980	7	6	4	0	1	2
1981	3	2	5	3	0	3
1982	5	3	2	4	0	6
1983	3	1	8	1	1	5
1984	1	5	5	2	1	5
合計	54	67	66	31	8	82

出典：Robinson, J. L.（1986）: Trends in geography in Canada as illustrated by articles in the Canadian Geographer, 1970－1984, *The Operational Geographer*, 9, 15－19.

歴史地理学に関しては，毎年2～3編の研究論文がコンスタントに提出されてきており，年次間で大きな変動は認められない．国家的レベルの研究は少なく，地域的レベル，特に南オンタリオに関する研究論文が多い．歴史地理学の教官の多くはオンタリオ州に集中している．

計量地理学の論文は，6分類の中では15年間に82本と最も多い．1963年にThe Canadian Geographer誌に掲載されたI. Burtonの計量革命に関する論文Quantitative revolution and theoretical geography（7巻4号，151－162）は，当時の世界の地理学者に大きな反響を呼んだ．しかし5年ごとに集計してみると，1970－74年は32本，1975－79年は29本，1980－84年は21本と計量地理学の論文は減少傾向にある．これは，以前ほど計量地理学が盛んでなくなってきていること，計量的手法の適用が一般化してしまい，特に新しい方法論や手法でない限り，都市地理学や自然地理学など他分野の研究にみなされてしまうこと，より高度な計量地理学的研究は計量地理学の専門雑誌（Geographical Analysis, Environment & Planning）に投稿されるようになったことなどが原因としてあげられる．

第10表は，The Canadian Geographer誌の掲載論文における著者の所属大学のランキングを示したものである．一般に，博士課程をもつ規模の大きな大学が上位レベルを形成するが，トロント大学やウェスタン・オンタリオ大学など，規模は大きいがランキングは低い大学もみられる．これら2大学の場合，合衆国やイギリスで発行されている学術雑誌への投稿が相対的に多いようである．またフランス

語圏の大学の所属教官の論文の少なさは，Cahiers de Geographie de Quebec や Geographie Physique et Quaternaireなど別のフランス語地理学雑誌への投稿に，より積極的であることに原因があるようである．

著者の属性をみてみると（第11表），北米で発行されている他の主要雑誌と比べてThe Canadian Geographer誌は，博士課程をもつ地理学科に所属する教官が執筆している割合が65.8％と一番高い．一方，大学教官でない地理学研究者による執筆は0.3％と最も低い．外国人地理学者による執筆も4.5％と他誌と比べて最低である．したがって，The Canadian Geographer誌は，主としてカナダ国内の大学教官によって投稿されており，どちらかといえば保守的な学術雑誌といえようか．

第10表　The Canadian Geographer誌掲載論文の著者の所属大学ランキング（1980－89年）

大学名	論文数
ヨーク大学	11
マギル大学	10
マックマスター大学	10
ウォータルー大学	10
アルバータ大学	8
ブリティッシュ・コロンビア大学	8
オタワ大学	7
サイモン・フレーザ大学	7
トロント大学	7

出典：Wheeler, J. O. (1990) : Publications in leading North American geography journals by Ph. D. －granting departments, 1980－1989, *The Operational Geographer*, 8－2, 2－5.

第11表　北米における主要9地理学雑誌に関する掲載論文の著者の属性

雑誌名	博士課程をもつ地理学科	博士課程をもたない地理学科	非地理学者	外国人地理学者	非研究者	合計
The Canadian Geographer	65.8(%)	18.9(%)	0.9(%)	4.9(%)	9.5(%)	100(%)
Annals of the Association of American Geographers	62.8	15.7	7.2	8.0	6.3	100
Economic Geography	49.7	21.6	10.3	13.7	4.7	100
Geographical Analysis	25.3	3.3	45.0	22.5	3.9	100
The Geographical Review	43.9	29.7	8.9	10.5	7.0	100
Journal of Geography	36.8	39.1	6.0	10.9	7.2	100
Physical Geography	60.5	15.9	9.3	6.3	8.0	100
The Professional Geographer	50.5	30.8	1.9	14.1	2.7	100
Urban Geography	60.0	9.3	10.6	15.4	4.7	100
合計	50.0	20.0	11.9	12.4	5.7	100

出典：第10表に同じ．

V　大学における地理教育

V－1　社会科学のなかでの地理学の地位

カナダの大学では，地理学は社会科学Social Sciencesの1部門である．社会科学には，人類学，地域研究，ビジネス・商業，経済学，環境学，地理学，法律学，政治学，心理学，秘書学，ソーシャル

・ワーク，社会学が含まれる[19]．社会科学の中で，地理学は学生受講数でみてどの程度の地位に位置づけられるであろうか．第12表によると，1988－89年度において地理学を主専攻にした学生は，カナダ全体で5,103名であった．これは社会科学全専攻生の3.7%を占め，13分類中8位を占める．イギリスでは，1979年のデータではあるが，14分類中6位にランクされ，社会学・生物学・経済学・心理学を専攻学生数で地理学は上回っている．カナダはイギリスよりは専攻学生が相対的に少ないといえる[20]．

大学院レベルでは，修士課程が社会科学全体の4.7%（570人），そして博士課程が7.7%（285人）を占める．博士課程では，13分類中6位に当たる．社会科学の中で，地理学は，上級レベルにいくほど専攻学生数のシェアが高くなる傾向にある．これは，ビジネス・商業・その他の専攻学生数が，学部では39.1%（54,108人），修士課程では36.7%（4,412人），博士課程では10.0%（369人）と，上級レベルほど下がっていくのと対照的である．

地理学は男子学生の割合が高い．学部レベルにおいて社会科学全体では男子の割合が48.4%なのに対し，地理学では男子が64.1%を占める．修士課程では，男子の割合が65.6%（社会科学全体では55.0%），そして博士課程では男子の割合は74.7%（社会科学全体でが56.4%）に達しており，いずれの場合も社会科学の平均を上回っている．しかも上級レベルにいくほど男子の割合は高くなる．男子学生の割合の高さは，自然地理学や応用地理学を専攻する学生の大部分が男子であることに起因する．

時系列的にみると，地理学専攻学生は，学部レベルで，1980－81年度と比較して1988－89年度には1.16倍に増加している．しかし，社会科学全体の専攻学生数の伸び率は1.47倍に達している．したがって，地理学専攻学生数の社会科学全体に対するシェアは，4.7%（1980－81年度），4.1%（1985－86年度），3.8%（1987－88年度），3.7%（1988－89年度）と年々減少してきている．この減少は，中・高等教育における地理学登録人数の低迷に大きな原因がある．オンタリオ州を例にとれば，中・高等教育における受講人数は1979－87年には299,728人であったのが，1983－84年には249,188人と5万人も少なくなっている（第13表）．地理学の受講人数の減少は，中・高等教育の全コースの登録人数の減少率よりもかなり速い速度で進行しているのである．

大学における地理学専攻学生の減少は深刻である．地理学の講義の1科目当たりの受講人数が年々減少し，科目数削減に追い込まれた大学もある．現段階では，合衆国の大学ほど危機的な状況には至ってはいないが，登録人数や受講人数の減少傾向がこのまま将来にわたって続くようであれば，大学における地理学の弱体化がカナダでも進むかもしれない．

しかし，大学院レベルではその影響は少なく，博士課程ではむしろ社会科学内での地理学の地位は，学生数でみる限り上昇している．1980－81年度には，社会科学全体に対して地理学の博士課程在籍者数のシェアは6.4%であったが，1988－89年度には7.7%へとシェアを伸ばした．カナダでは，現在，地理学の博士課程プログラムはきわめて充実した状態であるといえよう．

第12表 社会科学における専攻学生数の推移（カナダ全大学）[1)]

	学部			修士課程			博士課程		
	1988－89	1980－81	変化率[2)]	1988－89	1980－81	変化率	1988－89	1980－81	変化率
人類学	1,800 (646)[3)]	1,149 (402)	1.57	330 (113)	297 (134)	1.11	191 (89)	187 (105)	1.02
地域研究	952 (351)	518 (189)	1.84	154 (68)	167 (105)	0.92	35 (18)	122 (63)	0.29
ビジネス・商業・その他	54,108 (29,910)	42,308 (27,426)	1.28	4,412 (2,913)	3,527 (2,526)	1.25	369 (255)	144 (118)	2.56
経済学	13,202 (9,065)	7,296 (5,319)	1.81	861 (602)	696 (548)	1.24	407 (330)	498 (421)	0.82
環境学	2,340 (1,472)	2,030 (1,321)	1.15	1,066 (626)	884 (616)	1.21	87 (67)	41 (34)	2.12
地理学	5,103 (3,273)	4,396 (2,799)	1.16	570 (374)	552 (367)	1.03	285 (213)	168 (131)	1.70
法律学	10,562 (5,458)	9,743 (6,019)	1.08	272 (161)	211 (132)	1.29	50 (36)	31 (28)	1.61
政治学	11,541 (6,673)	5,497 (3,530)	2.10	914 (585)	672 (473)	1.36	484 (346)	238 (186)	2.03
心理学	20,833 (5,417)	9,661 (2,801)	2.16	1,148 (331)	1,018 (421)	1.13	1,257 (469)	859 (433)	1.46
秘書学	840 (24)	1,289 (6)	0.65	－	－	－	－	－	－
ソーシャル・ワーク	5,192 (1,002)	3,742 (711)	1.39	848 (187)	785 (256)	1.08	57 (27)	39 (18)	1.46
社会学	8,810 (2,512)	4,174 (1,432)	2.11	645 (266)	519 (258)	1.24	416 (205)	295 (168)	1.41
その他	3,170 (1,259)	2,140 (947)	1.48	792 (373)	625 (344)	1.27	64 (32)	16 (9)	4.00
合計	138,453 (67,062)	93,943 (52,902)	1.47	12,012 (6,599)	9,953 (6,180)	1.21	3,702 (2,087)	2,638 (1,714)	1.40

資料：Statistics Canada（1981, 1989）：Universities：Enrolment and Degrees.

注1）前年の9月から5月までの正式登録学生数である（聴講生等は含まない）.
2）1988－89年の学生数を1980－81年の学生数で除した値.
3）（　　）内は男子の人数である.

第13表　オンタリオ州における中等・高等教育における
地理学登録人数の変化（1979－84年）

年　度	中等・高等教育における地理学登録人数	年変化率（%）	中等・高等教育における全科目の登録人数	年変化率（%）
1979−80	299,728	−	4,730,673	−
1980−81	283,507	−5.41	4,579,032	−3.21
1981−82	264,876	−6.66	4,398,681	−3.94
1982−83	253,232	−4.40	4,338,308	−1.37
1983−84	249,188	−1.60	4,305,409	−0.76

出典：Fincher, R.（1985）：Improving geography's public and educational profile, *The Operational Geographer*, 6, 3－5.

V－2　地理学のカリキュラム－トロント大学を例に－

学部レベルで提供されている地理学の科目は多彩である（第14表）．78科目が開設されており，地理学のほぼ全領域をカバーする．第14表に示される100番台の入門コースは1年生向けであり，100～300人の学生が聴講する．2年になると各科目の専門性が高まり，受講者も50～100人と小人数になる．

地理学は，B. A. とB. Sc. の学士を授与する．卒業には，次の5つのプログラムの中から1つを選択し，所定の単位数を取らなければならない．1）環境・資源管理（B. A.），2）地理学（B. A.），3）歴史・文化地理学（B. A.），4）自然地理学（B. Sc.），5）都市・経済地理学（B. A.）．卒業するためには，通年コースに換算して17科目の単位を取得しなければならない．

第15表は大学院レベルで提供されているコースを示す．1988－89年度において，修士課程65名，博士課程26名が在籍していた．1988－89年度は4人が博士号（Ph. D）を取得した．大学院学生は，約半数がカナダ人である．残りの半数は外国人であり，特にイギリス，合衆国，中国からの留学生が多い．しかしながら，留学生に対する授業料が高額なため（カナダ人や移民の約4.5倍），最近では奨学資金を得ていない私費留学生は減少傾向にある[21]．

カナダにおける博士号取得者の就職は，現在のところ総じて良好である．Robinsonによれば，1976－83年にカナダの大学の地理学科で博士号を取得した207名のうち，65%の134名が大学教官になっており，大学は彼らにとって最大の就職先である[22]．このうち53名は外国の大学に就職している．これらの多くは，学位取得後，母国の大学で職を得て帰国した外国人留学生である．27名は合衆国の大学に就職している．2番目の就職先は州政府，連邦政府，外国政府の行政職や研究職で，約20%を占める．カナダ連邦政府のなかでは，Environment CanadaやEnergy, Mines and ResourcesやStatistics Canadaなどの部局の研究部門に学位取得者が採用されている．民間レベルでは，ビジネス関係が4%，そして都市・地域計画や環境アセスメントのコンサルタント業が4%となっている[23]．

第14表　トロント大学地理学科において提供されている学部レベルの学科目

GGR[1]	100[2] Y[3]	自然地理学入門
GGR	101 Y	資源・環境・開発
GGR	110 Y	食糧・農業・人口
GGR	124 Y	都市化－近年の都市と都市発展
GGR	201 H	地形学
GGR	203 H	気候学入門
GGR	205 H	土壌学入門
GGR	206 H	水文学入門
GGR	207 H	空中写真解読
GGR	211 H	都市の歴史地理
GGR	220 Y	地域経済モデル
GGR	222 Y	人口地理学入門
GGR	233 Y	開発に対する環境管理
GGR	239 H	国際政治地理学
GGR	243 H	合衆国：景観とコミュニティの発展
GGR	244 H	ラテンアメリカの歴史地理
GGR	246 H	カナダの地理
GGR	247 H	カナダの地域・州・地域主義
GGR	248 H	連邦制以前のカナダの歴史地理
GGR	249 H	現代のラテンアメリカ
GGR	252 H	商業地理学
GGR	254 H	合衆国の地理
GGR	256 H	リクリエーション地理学
GGR	258 H	連邦制以後のカナダの歴史地理
GGR	262 H	コンピュータ地図学
GGR	270 Y	分析手法入門
GGR	276 H	地理学におけるデータ加工入門
GGR	281 H	地図学
GGR	282 H	地図学の技法
GGR	301 H	計量・環境地形学
GGR	305 H	植生地理学
GGR	306 H	古気候復元の諸技法
GGR	307 H	土壌・水・土地管理
GGR	310 H	植生地理学の諸問題
GGR	312 H	気候の自然的基盤
GGR	313 H	氷河地形学
GGR	314 H	気候インパクト・アセスメント
GGR	321 H	地理思想史
GGR	323 H	人口分析の原理
GGR	324 H	交通地理学・交通計画学
GGR	326 H	産業立地論：理論・応用・政策
GGR	327 H	社会研究方法論
GGR	330 H	農村的土地利用
GGR	331 H	資源環境理論
GGR	332 H	都市廃棄物管理

（次ページに続く）

（続き）

GGR	333 H	カナダのエネルギー：地理的政策的諸問題
GGR	334 H	水資源管理
GGR	336 H	北アメリカの都市歴史地理
GGR	339 H	都市地理学，計画と政策的プロセス
GGR	343 H	変動する中国の地理
GGR	344 H	ソ連：地理学的研究
JGI	346 H	カナダの都市計画プロセス
GGR	347 H	変動する日本の地理
GGR	350 H	環境の認知と行動
GGR	357 H	住宅の地理と住宅政策
GGR	358 H	ソ連：資源分析
GGR	359 H	都市の空間構造と都市成長
JGI	360 H	都市化と計画
GGR	361 H	都市景観の理解
GGR	363 H	地理的情報処理
GGR	364 H	カナダの民族集団の歴史地理
GGR	366 H	トロントの歴史地理
GGR	371 H	地理学における多変量モデル
GGR	390 H	地域調査論
GGR	391 H	研究デザイン
GGR	392 H	歴史地理学の研究手法
GGR	393 H	開発に対する環境アセスメントの諸手法
GGR	401 H	河川地形学
GGR	402 H	気候モデル論
GGR	403 H	大気－海洋モデル論
GGR	417 H	資源環境計画
GGR	431 H	地域動態論
GGR	436 H	観光地理学
GGR	446 H	歴史地理学のアプローチ法
GGR	461 H	環境のリモートセンシング
GGR	462 H	地理的情報システム
GGR	470 H	地理学・計画学における応用線形モデル
GGR	491 Y	研究プロジェクト

資料：Dept. of Geography, Univ. of Toronto（1989）：Undergraduate Handbook：Your Guide to Geography Courses and Programmes at the University of Toronto. 29p.

注1）GGRは地理学科独自のコース，JGIは他学科との共通コース．
2）100番台は1年生，200番台は2年生，300番台は3年生，そして400番台は4年生向けのコース．
3）Yは通年，Hは半期のコース．

第15表　トロント大学地理学科において提供されている大学院レベルのコース

指定コース	
1011 Y	他学科の博士課程在籍者のための特別演習
1101 F	地理思想史
1102 S	地理思想の現代的諸問題
1104 S	マルクス主義と地理学
1149 H	特定題材の講読
2150 H, Y	特定題材に関する演習（上級コース）
自然地理学	
1200 H	自然地理学コアコース
1201 H	斜面の形成とマス・ウェィスティング
1202 H	氷河地形学
1203 L	海岸地形学
1204 H	土壌侵食研究
1205 H	地形学の理論
1206 H	堆積プロセス論
1304 H	生気候学
1305 F	植生地理学
1306 H	環境測定論
1307 S	植生地理学の諸問題
1308 H	融雪水文学
1310 H	気候モデル論
1311 H	大気－海洋モデル論
環境・資源地理学	
1400 H	環境地理学における現代の研究アプローチ法
1402 S	土地管理
1411 F, Y	自然災害研究演習
1412 S	エネルギー・天然資源政策論
JPG 1413F	環境アセスメントの諸手法
1417 S	乾燥・半乾燥地域における環境管理
1418 S	都市化地域の農村集落と土地利用
JPG 1419S	環境アセスメントにおける地域調査
1420 S	観光地理学
都市地理学	
1501 S	都市の空間構造と都市成長
1502 F	都市・地域システム
1503 F	環境の認知と行動
1507 S	住宅と住宅政策

（次ページに続く）

（続き）

経済地理学	
1602 S	産業：立地，行動，政策
1603 S	交通システム論
1610 F	地域開発の諸問題
1614 H	地域動態と政策
1651 S	人口分析：研究演習

地誌学・地域研究	
1604 Y	ソ連の経済地理
1704 Y	ラテンアメリカ
1706 S	中国の地域開発研究：1850年から現在まで
1709 S	日本の地域開発

文化・歴史地理学	
1700 H	文化・歴史地理学演習
1701 H	新世界居住プロセス
1702 F	歴史都市地理学
1711 H	経済力と技術力－アメリカ大陸の変化
1713 H	場所と景観

社会地理学	
1801 F	社会地理学入門
1802 S	社会地理学：歴史的現代的応用
1803 S	リクリエーション地理学

地理分析の諸技法	
1901 H	分析手法入門
1902 F	地理学における行列モデル
1903 S	地理学における多変量解析
1906 F	地理的データ処理
1907 H	地理的情報処理
JPG 1909F	社会調査方法論
1911 F	リモート・センシング
1913 S	コンピュータ地図学
JPG1914S	空間情報システム

資料：Dept. of Geography, Univ. of Toronto (1989) : Graduate Studies in Geography, 32 p.

注　：2000番台は博士課程用コース，ＪＰＧは他学科との共通コース，Ｆは秋学期，Ｓは春学期，Ｈは両学期にまたがるコース，Ｌは１月にはじまり両学期にまたがるコース，Ｙは通年のコース．

Ⅵ　むすびにかえて－カナダ地理学の特色

1980年代に入り，合衆国地理学の停滞が顕在化するなか，カナダの地理学は安定した地位を保持している．わずか50年という短期間の歴史しかもたないカナダの地理学は，1980年代中葉になってやっと成熟の段階に達したといえる．

1950年から60年代にかけて，カナダでは多くの大学に修士課程や博士課程を有する大規模な地理学科が次々に設立されたが，スタッフの確保がカナダ国内では難しく，人材不足のため多くの外国人地理学者に依存せざるを得なかった．70年代以降，地理学科は質・量ともに充実し，優秀な人材の輩出に成功し，世界的に著名な地理学者を何人も擁するまでに成長した．大学ばかりでなく連邦・州政府の重要な計画立案部門に採用される大学院学生も多く，また合衆国やイギリスの著名な大学に招聘される専門教官も少なくない．

学問領域がさほど細分化されていないこともあって，カナダの地理学がカバーする領域は広い．伝統的な地理学諸分野はいうまでもなく，環境科学，自然災害，資源問題，コンピュータ・マッピングなどの分野は地理学科に含まれるのが一般的である．これらは地理学科でカリキュラムが組まれ，多くの学生が地理学の科目として教育を受けている．また地域科学，都市・交通計画学，都市問題，地域経済学，植物学，造園学，景観学，建築学，地質学など隣接諸分野で活躍する地理学者も多い．カナダの大学では，付属機関として多くの研究所が設置されているが，たとえばトロント大学の場合，環境研究所や都市・コミュニティ研究センターなどでは多くの地理学者が活躍している．1982年には，トロント大学地理学科は大学院修士コースを有する都市計画学科を合併吸収してしまった．

カナダの地理学は，70年代までは，特に自然地理学が盛んであった．イギリス流の自然地理学が主流を占め，なかでも地形学・氷河学そして気候学が充実していた．広大な国土をもち，豊かな地下資源を大量にかかえていることもあり，自然地理学に対する国民の期待は大きく，社会的ニーズも高かったのである．80年代にはいると，純粋な自然地理学は弱体化し，自然と人間との相互作用を扱う環境研究が活発化し，資源の利用，環境アセスメント，自然災害，人的災害，公害などの研究が盛んになった．最近世界的に関心が高い地球環境問題に対しても，地理学者は積極的に発言し，彼らの提言はテレビ，ラジオ，新聞紙上をにぎわせている．地理的情報システムGISの研究も近年盛んな分野で，世界的にみてもこの方面の研究をリードしている．

カナダの地理学は，実用科学的色彩を強めている．モニタリング，将来予測，将来計画，政策等に積極的に関与する．社会が今何を必要としているかに敏感に反応し，その社会的要請に敏速に答えようとする姿勢がうかがえる．そして必要とする人材の確保は迅速である．GISの分野などは，アメリカ合衆国に先がけて，優秀な研究者を何人も採用している．優秀な人材は，地理学出身者ばかりでなく，民間会社や他の専門分野（コンピュータサイエンスなど）からも積極的に採用し，地理学者として活躍させて，地理学の地位を結果的に高めるといったしたたかさもある．また，テーマによって研究の助成額は大きく異なる．自然地理や経済・資源地理，応用地理は研究費がとりやすいが，文化地理や歴史地理はとりにくいといわれる．

しかしながら，カナダ地理学のかかえる問題点も多い．第1に，学部レベルにおける地理学受講人数の伸び悩みは深刻である．経済学や社会学の受講人数が伸びているのと対照的である．この原因は2つ考えられる．1つは，1970年代中葉以降，大学で地理学科が全く新規に設立されていないことである．もう1つは，前述したように，中・高等教育のカリキュラムの改訂変更により，地理学を学ぶ生徒が少なくなっていることである．地理学の中・高等教育での地位は今後ますます弱体化することが予想される．たとえば，ケベック州のカレッジ（他州の12年生（Grade12）・大学1年生に相当）では，1990年より施行されたカリキュラム改革で，今まで提供されていた地理科目が25から16に減らされた．特に自然地理学の科目は10から5に半減した．この改革により，地理学は主要科目からはずされ，他分野のためのサービス科目になってしまった．こういった中・高等レベルでの地理学の地位の相対的低下は他州の教育改革でも多かれ少なかれ認められ，やがて大学における地理学の登録人数の減少や地理学専攻学生の質の低下をひきおこすのではないかと懸念される．Fotheringhamは，現在の英国地理学の繁栄・強さの背景として，中・高等レベルにおける地理学のカリキュラムの強化・充実をあげているが[1]，もしそうであれば，カナダでの中・高等レベルの地理学の弱体化は今後，大学レベルにまで及ぶかもしれない．

第2の問題は，大学教官の年齢構成の不均衡である．1960～70年の短期間に多くの地理学科が集中的に設立され，70年以降は新規設立が少なくなったため，大学教官の年齢構成に片寄りがみられるようになった．特に設立時期の古い大学では，教官の高齢化が急速に進み，教官定員が増えない小規模地理学科では，若年の教官が極端に少ないといった傾向もみられる．大学教官の新規ポストも少なくなりつつあり，学位取得者は大幅に増加しているにも関わらず，大学への就職はせばまりつつある．連邦・州政府の研究職も，最近では建築学科や土木工学科出身の学位取得者とのはげしい競争にさらされている．

第3に地理学研究者の男女比の問題がある．MacKenzieによると，特にカナダの地理学科では，女性の就職機会が少ないという[24]．全学問分野では，全大学教官のうち18.6％（1988－89年度）が女性であるのに対し，地理学の場合は9.0％にすぎない．教授クラスになると，女性の地理学者の割合はさらに低下する．1988－89年度では，教授（full professor）はわずか1人，準教授は9人にすぎない．一方，地理学専攻学生においては，学部レベルでは35.9％，修士レベルでは34.4％，そして博士レベルでは25.3％が女性であり，かなり高率である．しかもこの割合は年々高まってきている．今後，女性の大学教官への進出が期待される．

このような問題点を有しながらも，カナダの地理学は着実に成果をあげ，社会的信頼も厚い．わが国の地理学が学ぶ点も少なくない．以上，カナダ地理学の特色と動向について報告してきた．カナダ地理学のますますの発展を願ってやまない．

本報告を作成するにあたっては，カナダ政府の研究助成（カナダ講座充実助成FEP）を得た．客員研究員としてトロント大学に滞在中（1990年7月から9月）は，地理学教室のジム・シモンズ教授とラリー・ボーン教授にお世話になった．以上記して感謝申し上げる．

注・参考文献

1）Fotheringham, A. S. (1984) : Geography in the United Kingdom, *The Professional Geographer*, **36**, 482－484.

2）Haigh, M. J. (1982) : The crisis in American Geography, *Area*, **14**, 185－189.

3）Tomkins, G. (1980) : School geography in Canada : a historical perspective, in CAG ed., *Canadian Geographical Education*, Univ. of Ottawa Press, 3－18.

4）Robinson, J. L. (1951) : The development and status of geography in universities and government in Canada, *Yearbook of the Association of Pacific Coast Geographers*, **13**, 3－13.

5）Uren, P. C. (1950) : The status of military geography in Canada, *The Canadian Geographer*, **1**, 11－14.

6）Stamp, L. D. (1951) : Geography in Canadian University, Canadian Social Science Research Council, 75p.

7）彼は，1950年にアメリカ地理学会のディレクターになった．

8）また，連邦政府にも多くの地理学研究者が採用されるようになった．1950年の時点で，Geographic Branch of the Department of Mines and Technical Surveysには20名の地理学者が，そしてJoint Intelligence Bureau of the Department of National Defenseには7人の地理学者が採用されていた．Dagenais, P. (1953) : Status and tendencies of geography in Canada, *The Canadian Geographer*, **3**, 1－15.

9）AAG (1989) : Guide to Department of Geography in the United States and Canada, 1989－1990に記載されている30大学を対象としている．

10）注9）の資料による．なお，CAG (1988) : Canadian Association of Geographers Directory, 1988には，43大学が記載されているが，これには，地理学教官は在籍しているが学科として存在しない大学，地理学教官が1～2人の小規模な大学，単独の地理学科ではなくいくつかの学科が統合されている大学などが含まれている．本報告ではこのような大学は考察の対象としない．

11）注9）の資料による．

12）Wheeler, J. O. (1990) : Publications in leading North American geography journals by Ph. D－granting departments, 1980－1989, *The Operational Geographer*, **8**－2, 2－5.

13）この傾向は「教官選考において，優先権は第1にカナダ人・カナダ永住者にある」というカナダの法律に支えられて，現在ますます強まる傾向にある．したがって近年では，外国で学位を取得したといっても，もともとカナダの国籍を有していることが多い．

14）Watson, J. W. (1950) : The Canadian association of geographers : a sketch of the preliminaries, *The Canadian Geographer*, **1**, 1－3.

15）Robinson, J. L. (1986) : Geography in Canada, *The Professional Geographer*, **38**, 411－417.

16）カナダの場合，地理教育の専門家は教育学科に配属されるという特殊事情がある．

17）38人のスタッフのうち，人文地理学関係19名，自然地理学11名，応用地理学8名となっている．カナダ全体の平均からすると，やや人文地理学が優勢である．

18）以下の論議は，Robinson, J. L. (1986) : Trends in geography in Canada as illustrated by articles in the Canadian geographer, 1970－1984, *The Operational Geograper*, **9**, 15－19の考察による．

19）Statistics Canada (1989) : Universities : Enrolment and Degreesの定義による．

20）注1）参照．

21）1988－89年度におけるトロント大学地理学科大学院コーディネータのラリー・ボーン教授談による．

22）注15）参照．

23）Robinson, J. L. (1984) : The employment of Ph. D. geographers in Canada, *The Operational Geographer*, **3**, 20－22.

24）この数字は合衆国と大差はないが（8.4%），合衆国の場合，社会学では20%が女性であるという．MacKenzie, S. (1989) : The status of women in Canadian geography, *The Operational Geographer*, **7**－3, 2－8.

Geography of Canada

Yuji MURAYAMA

This paper attempted to report the present situation of Canadian geography with special reference to its history, staffs, research field, department management, graduate and undergraduate education, periodicals, associations and research activities.

Canadian geography had been greatly influnced by American and British geography through the introduction of their ways of educating and studying, and the employment of prominent professors in the 1950s and 1960s. But in the 1980s, the geography of Canada has attained to the mature stage, and has played an important role especially in the policy-oriented field including GIS, environmental science and urban planning.